



今回私は、『輝く子ども・保育教諭 出会いから未来へ』というテーマを頂きました。

保育所・こども園・幼稚園…子どもたちに関わる施設には様々なものがありますが、私たちが働くこうした施設は、子どもたちの人生のスタートラインとなる、とても大切な場所であると感じています。子どもたちにとっての『初めての出会い』がたくさん溢れている場所。人との出会い、自分の中の感情との出会い・好きだと思える遊びとの出会い・様々な出来事との出会い。挙げればキリがない程に“出会い”で溢れている場であると、改めて実感しました。そうした中で今回は、『人との出会い』という部分で内容を考えてみました。

多くの子にとって、こども園・保育所が、初めての“集団生活”との出会いとなります。保護者・兄弟・親戚…身近な存在以外の他者との出会いです。そうした人との関わりの中で、人と関わる心地よさ・思いを共有できる喜び・思うようにいく事ばかりではない中での葛藤など様々な思いを経験し、他者への関心・信頼感などを上げていきます。そうした中で、『人との出会い』の大切さを感じたエピソードを2つご紹介したいと思います。

0歳児から入園したAちゃん。入園当初は人との関わりに興味を示しにくく、表情が晴れないこともしばしばといった様子。そんな中、クラス担当同士の手携いの中で、“年長児と0歳児との関わり場を設ける”という取り組みがスタートしました。初めの頃はお互いに関わり方が分からず、年長児が0歳児の玩具で遊んで帰る…という姿もありました。しかし、短い時間ではありながらも日々継続して取り組む中で、徐々にお互いに関わり方が分かるようになってき、0歳児クラスの子どもたちも年長児に対して、信頼を寄せる姿が見られるようになってきました。そうした関わりの中で、Aちゃんの中にも変化が見られるようになりました。前述したように、関わりに興味を示しにくかったAちゃんですが、いつからか、年長児の姿を見つけるとパッと表情を明るくし、跳ねるようにして喜びを表すようになったのです。戸外遊びの際に年長児がひよこ組まで声を掛けにきてくれる事も多く、そうした際にはすぐに呼び掛けに反応し、笑顔を浮かべて窓際に駆け寄るAちゃんの姿。そうした姿を見る中で、他者への信頼感が広がり、また人との関わりに期待を持てるようになったという部分での大きな成長を感じ、とても胸が温くなる思いを経験する事が出来ました。Aちゃんにとっての年長児との出会いは、これからの人とのつながり・心の成長につながる、とても大切なものとなったことと思います。

もう一つのエピソードは、私が初めて担当させてもらったクラスの子の話です。私が初めて担当した子たちは、現在小学5年生になっています。小学校へ就学すると顔を合わせる機会がほとんどなくなる事が多い為、『今どうしているんだろう』『元気にしているかな?』と考える事が多々あります。そうした中で、ある日そのクラスの卒園児が園へとやってくる事がありました。「山口先生!」とやってきてくれ、会話を交わしました。会話や行動の中から、その子の中にも色々な思いがあり、ふと思いついたのが“瀬戸保育所”であったのだ、という事を感じられたその場面。卒園してからも、どこかで心の拠り所となれているのだという事に、自分たちの在り方について改めて考えさせられる出来事でした。

子どもたちが未来へと歩む中で、“様々な土台”を培っていくのがこども園や保育所です。心身の成長の土台を培う事はもちろんですが、気持ちがあくじけそうな時に『瀬戸こども園がある』『大切に思ってくれる先生がいる』という“気持ちを支える心の土台”として、子どもたちの長い未来の中での“出会い”を果たしていきたいと感じています。

出会いから未来へ。子どもたちが『初めての出会い』と経験する場で働く保育教諭として、様々な“出会い”の場を設け、“未来へとつながる出会い”として在れるように、一人ひとりとの関わりを大切にしていきたいと思えます。

※2018年4月より、「瀬戸保育所」から「瀬戸こども園」に変わっています。



(2018年5月)